

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 令和 5年 12月 25日

事業所名: 児童発達支援事業所ぴーす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	法令を遵守したスペースを確保している。	はい…14名 広いと思う	今後も活動に合わせた十分なスペースを確保ができるよう、安全に配慮し整備に努める。
	2 職員の適切な配置	法令で必要とされる配置数より保育士を多く配置している。	はい…11名 わからない…3名 毎日何人いるか知らない	引き続き必要な人員配置を維持する。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	バリアフリー化は行っていないが、現在の利用者様の中では特に不便は感じられない。	はい…12名 どちらともいえない…1名 わからない…1名	場合や状況の変化に合わせて環境整備を見直していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日提供時間終了後に清掃と作業を行っている。定期的におもちゃや手が触れる部分の消毒作業をしている。	はい…13名 わからない…1名	引き続き、子ども達が安心・安全に過ごせるよう、清掃、整理整頓、消毒に努め、清潔保持する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	提供開始前・終了後に引き継ぎや振り返りを行っている。 今後は非常勤スタッフも交えてミーティングの機械を設けていく。		職員間の連携を深め、日々の業務の振り返りとともに、業務に対する意識向上に取り組む。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在は第三者による外部評価は行っていないが、保護者のアンケートより改善につなげていき、今後検討していく。		保護者の方のご意見やアンケートより改善し、良質なサービスの提供と質の向上を図る。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	事業所内で研修を実施しスキルアップを図っている。		今後も研修の機会を設け、職員一人一人の意識改善・向上を図る。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	計画期間ごとに保護者とアセスメントを行うことで解決すべき課題や保護者や利用者本人のニーズを明らかにし職員の意見もふまえた上で計画の作成を行っている。	はい…13名 どちらともいえない…1名	今後も利用者や保護者のニーズに沿った計画の作成に努める。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもの特性や状況に応じて個別・集団を組み合わせ合わせた計画の作成を行っている。	毎回、しっかり話を聞いてくださっています。モニタリング等でこちらに寄り添って頂いて明確な目標などの提案をして下さる。子どもの苦手なことにも挑戦させてほしい。どれが苦手かわからない。	特性に配慮した個々の課題、社会性を育む為の集団での課題を組み合わせ、個別支援計画を作成する。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個別支援計画に具体的な支援内容を記載し、保護者の同意を得ている。		今後も利用者や保護者のニーズに沿った計画書の作成を心掛け、支援目標が達成できるような内容になっているか見直していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画に沿って支援を実施している。適切な支援ができるようその都度職員でのフィードバックを行っている。	はい…11名 どちらともいえない…1名 わからない…1名 子どもが幼稚園での事、デイでの事を言わないから分からない	現状を維持していく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	週ごとに療育立案者を交代しながら療育内容が偏らないようにしている。立案者は週案表に療育内容を記入し、スタッフ全体で見直し改善しながら支援している。		現状を維持していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日・長期休暇に関わらず、毎日療育プログラムを設定し、活動プログラムを充実させている。	はい…12名 どちらともいえない…1名 わからない…1名	現状を維持していく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	子どもが療育プログラムに飽きがでないよう連続して内容が被らないように立案し、活動プログラムを充実させている。	毎回色々なプログラムに取り組みせていただいています。いつもちがうプログラムで子どもも飽きずに頑張っている。	現状を維持しながら、日々の支援会議でプログラム内容の見直しや改善を行い、今以上の工夫を行う。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	療育プログラムの内容は週案表に記入し周知している。特別な配慮や支援が必要な場合を想定しながら、毎朝役割分担を決めて取り組んでいる。		現状を維持していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	提供時間終了後、スタッフ全員で共有できるよう子どもたちの様子を支援経過記録に記録し共有している。		些細な気づきでも、職員間で報告、連絡、相談を徹底し、情報共有していく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	個別に支援内容の記録をし、ミーティング等で見直しを行っている。		支援経過記録を活用し、職員間での共通認識を図り、支援の振り返りや見直しを行う。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に一度のモニタリングやその都度相談面談等で実施している。ミーティング等で計画内容の見直しをしている。		モニタリングにおいて職員全員で意見交換をし、支援課題の抽出、支援目標について議論し共通認識を深める。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	サービス担当者会議には児童発達管理責任者が出席している。		現状維持をしていき、職員へ情報共有し、共通認識を図る。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現在対象となる方のご利用はありません。		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現在対象となる方のご利用はありません。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	移行支援では電話や書面等で情報共有を行っているが、保護者や相談支援員を通して情報共有することもある。		相談支援事業所や保護者から情報を共有しているので、今後は幼稚園や保育園とも連携をとり、より良い支援に繋げていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	児童発達支援事業所の為、対象となる方のご利用はありません。		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	外部研修は現在行っていないが、必要性を感じる為、今後参加できるように前向きに検討していく。		外部検討に参加できるように、シフト調整していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	特別な交流や活動の共有はしていないが、前向きに検討している。 現状では公園や野外活動等で機会を作っている。	はい…3名 いいえ…1名 わからない…10名	検討課題としていく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現状では行われていない。		検討課題としていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	見学時や契約時に詳細は説明している。支援内容は連絡帳や日々の送迎時にその都度お伝えする。	はい…13名 わからない…1名	現状を維持していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	個別支援計画の目標及び支援内容を保護者の方に説明している。	はい…13名 わからない…1名	引き続き、支援の内容についてはわかりやすく丁寧な説明を心がける。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレント・トレーニングは行っていない。モニタリングや送迎時等で保護者から相談を受けた際には、お子様の特性に合わせた望ましい関わり方や対応をお伝えしている。	はい…9名 どちらともいえない…1名 わからない…4名	現状ペアレント・トレーニングを行う予定はないが保護者からの相談等があった際には、望ましい関わり方や対応をお伝えする。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や送迎時、場合によっては電話や面談をして共通理解を深めている。	はい…13名 どちらともいえない…1名 毎回の送迎時にもその日の様子等、伝えていただいたり、常に情報交換できています。いつもたくさん子どもの事のお話ができ安心。一人の先生だけは理解できているけどあとは難しい。	現状を維持していく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	日常生活面や進路に関するご相談を受けることが多く、その都度対応している。	はい…11名 わからない…3名 とでもしていただいています。モニタリング等で充分の支援をして頂いている。	引き続き、保護者と職員間での相談しやすい関係性を構築し親身に対応していく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	支援参観を設けているが保護者同士の連携支援は現在実施していない。保護者の方の要望があれば開催に向けて取り組む。	はい…1名 どちらともいえない…1名 いいえ…5名 わからない…7名 要らない	保護者会の開催の要望があれば、開催する。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	窓口担当者・解決責任者を設置し、重要事項説明書に明記している。契約時にその旨を説明している。	はい…10名 わからない…4名 どの先生もではないけど	今後も苦情には迅速に誠意をもって対応し、検証、解決、再発防止に努める。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	絵カード・マカトン法・ジェスチャー等で特性に応じて用いている。保護者には連絡帳・通信・インスタ・You Tube・参観等で活動内容を発信している。	はい…12名 どちらともいえない…1名 わからない…1名	引き続き、特性に配慮したツールを用いて、意思疎通や情報伝達ができるよう努める。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、通信を発行し行事予定を明記している。	はい…13名 わからない…1名 インスタグラム、YouTube楽しみにしています。インスタ等で発信して下さっているののでピーすでの様子も見る事ができうれしいです。	引き続き、通信やSNSで情報発信を行い、活動内容や連絡事項をわかりやすくお伝えする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報保護に努め、取り扱いには十分配慮している。	はい…13名 わからない…1名 スタンプで顔を隠してくれています。(instagram)	個人情報の重要性を認識し、適正な管理と保護に努める。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応・防犯・感染症対応マニュアルは設備している。 今後は社内研修も前向きに検討していく。	はい…6名 わからない…8名	対応マニュアルは整備している。必要に応じて簡易資料を配布する等、保護者への周知方法を工夫する。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難訓練を実施し、尼崎市へ報告している。訓練後には反省点や改善点を話し合う機会を設けている。療育活動時には定期的に災害の紙芝居を読み聞かせしたり、野外活動時の移動時には災害時に実際に使用する避難縄を使用している。	はい…12名 わからない…2名 子どもが「じしん」という言葉を言ったりしているので、教えてくださっているのだなと思いました。	年に2回避難訓練は実施している。実施した内容を基に反省点、改善点を見つけ、今後の避難訓練の実施に生かす。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	障害者虐待防止マニュアルに基づき事業所内で研修を行っている。 研修時に欠勤した職員には後日説明している。		今後も研修の機会を設け、職員の意識向上に努める。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状では身体拘束が必要な利用者はいない。		
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アレルギーの重度に関わらず、アレルギーがある子どもへの食事やおやつ提供は、完全除去提供している。提供時にミスがないように準備したスタッフとは別のスタッフが確認し二重で確認をしてから提供している。		保護者からの聞き取りを怠らず、職員間での周知徹底を図り、今後も安全に配慮した提供を行う。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例が起きた際には速やかに報告書を作成し、職員間で共有を行い、安全に過ごせるように速やかに改善に向けて取り組んでいる。		事故防止の為、事例検証をした上で、職員間で反省点や改善点を話し合っていく。